

5. 基本機能構成

3) 交流スペース

5つの主要機能は、それぞれが単体で機能するのではなく、複合施設として、相互に連携し活用されることで、その性能が最大限発揮されるものと考えます。

その各機能を連結するためには、みんなが一緒に楽しめる場所で、世代を超えた交流を生み出す仕掛けやスペースを備えた「交流スペース」が重要であり、「ホール」と「広場」は、その核となる施設と位置づけます。

そこで、「ホール」と「広場」が担う役割や求められる機能などについて、次のとおり整理します。

①ホールについて

ホールは、市民が行う様々な文化活動の鑑賞、発表、練習の場であり、「文化創造」や「活動支援」に欠かせないものです。

また、ホールでのイベント開催による周辺への賑わいや、災害時の避難場所としての活用など、ホールは「賑わい交流」や「防災」の役割も担っています。

【既存施設にあるホールの状況】

現在、松山市の中心市街地には松山市民会館、松山市総合コミュニティセンター及び愛媛県民文化会館にホールがあり、その規模や立地に応じて各種イベント、コンサート、講演などが分担、補完し合いながら行われ、市民活動や文化・教養の発展に寄与している状況です。

しかし、松山市民会館は、同施設が立地する城山公園が文化財保護法に基づく史跡に指定されており、同公園内での再築ができないため、将来的には、松山市民会館が担ってきた役割や機能の全部又は一部の機能の確保が必要と考えます。

5. 基本機能構成

【ホールの役割】

ホールは「文化創造」、「活動支援」の核となることから、次の2つの役割が求められます。

今後、市民参画のもと市民がしたいことを表現でき、わくわくする刺激を受ける「松山らしい」ホールの実現をめざします。

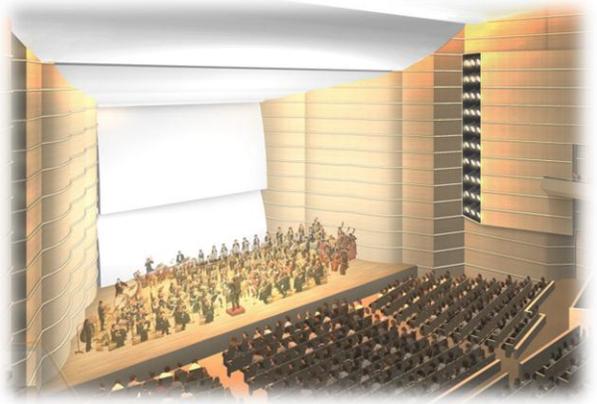
(ア) 日常の場としてのホール

- 発表、練習・創作・体験を日常的に行う場
- 市民の交流を促進できる、市民が利用しやすい規模・機能



(イ) 非日常の場としてのホール

- 鑑賞、発表などのハレの場
- 高い音響特性や優雅な雰囲気を持ち、非日常を体験できる「わくわく」する場



② 広場について

広場は、散策や休憩をしたり、知り合いと会話を交わす憩いの場であり、イベント会場としても活用でき、「賑わい交流」に欠かせないものです。また、災害時の避難場所としての「防災」の役割も担っています。

東西のJR松山駅前広場から歩行者を誘導するような緑あふれる屋外広場や施設内にも広場を設け、市民に憩いと交流を促す広場の整備をめざします。

5. 基本機能構成

4) 他施設との機能分担と相互連携

先に挙げた主要機能について、松山駅周辺地区内や既存の公共施設など他施設と、機能の役割分担を明確にし相互に連携を図ることが必要です。

①松山駅周辺地区内

松山駅周辺地区内は、土地区画整理事業などにより車両基地跡地の隣接地でも施設整備が進められることから、車両基地跡地の利用は、駅前広場や県有地、民有地など松山駅周辺地区全体での調整が必要です。

②既存の公共施設

既存の公共施設との調整には、「公共施設マネジメント」の基本方針を考え合わせた検討を行っていきます。

【公共施設マネジメント】

近い将来、松山市の公共施設の多くは、更新や改修の時期を迎えますが、少子高齢化と人口減少がますます進行していくことが予想される中、今後の社会状況や財政状況、市民ニーズの変化を受けた、公共施設の全体最適化を図った公共施設のマネジメントを推進する必要があります。

そこで、松山市の公共施設の今後のあり方について、基本的な方向性を定めた「松山市公共施設マネジメント基本方針」を平成26年2月に策定し、その基本理念として「経営的視点から公共施設の「量」・「質」・「コスト」の見直しを図り、安全で安心な公共施設を提供する。」と掲げています。

また、取り組み方針のうち「方針1 施設保有量の最適化」では、新規整備や既存施設を更新する場合は、「新規に整備する必要がある場合は、類似施設や周辺施設の状況やライフサイクルコストなどを十分検討し、さらに人口や財政状況などの予測から中長期的に保有できる範囲で行う。」「既存施設の更新は原則複合施設とする。」「老朽化に伴い更新する場合は、周辺施設との複合化により機能を維持しつつ施設量を削減する。」としています。

6. 今後の留意点など

車両基地跡地の施設建設は、松山駅周辺土地区画整理事業の進捗に合わせて整備を進めていきます。

今後の施設の計画、設計、建設、管理・運営などについて、次の点に留意します。

1) 基本計画・施設設計に向けた配慮

①松山の新たな顔づくりに向けた景観・デザインへの配慮

車両基地跡地は、県都の陸の玄関口として位置づけられる松山駅周辺地区に位置することから、地域の景観のシンボリックな役割を果たし、周辺の良い街並み形成や景観づくりを先導するだけでなく、松山市のイメージを高め、まちへの愛着・誇りが育まれる施設をめざすことが必要です。

施設の景観・デザインについて、次の点に配慮します。

- 施設の内外が見通せ、賑わいが外にしみ出すデザイン
- 地域性に配慮し、市民が愛着を感じられるデザイン
- 地区へのアクセス道路からの見え方、鉄道や路面電車からの見え方など景観への配慮

また、駅拠点地区としてのたたずまいと調和がとれた良好な景観形成、エントランスとなるJR松山駅や路面電車の電停と車両基地跡地などをつなぐ歩行者空間の連続性の確保などに向けて、関係地権者などの合意形成を図ることが必要です。

さらに、松山駅周辺地区の整備効果を松山総合公園から中心商業・業務地区、城山公園、そして道後温泉へと波及させるためには、大手町通りなどについても、景観・デザインに関する取り組みを促進することが必要です。

6. 今後の留意点など

②環境モデル都市としての配慮

環境配慮や低炭素に関する社会的な意識の高まりのなか、松山市が環境モデル都市に選定され、車両基地跡地の利用でも、次の点に配慮します。

- 省エネルギー、省資源に積極的に取り組み、環境への負荷の低減
- 広場などオープンスペースの創出や施設及び敷地内の積極的な緑化

③その他

その他、基本計画・施設設計に向けて、次の点についても配慮します。

- ハード整備にとどまらない、ソフトを含めたユニバーサルデザインの導入など、誰もが利用しやすい施設の実現
- 建設コストだけでなく、維持・管理・運営コストの低減
- 将来の社会情勢の変化などに対応できるよう「可変性」や「転用性」に配慮した柔軟な施設計画
- IT化、グローバル化への対応

2) 市民参画と民間活力によるまちづくり

①新しい文化を先導する市民参画の実現

松山駅周辺地区のまちづくりでは、市民への情報発信・参画機会の創出に取り組んでいます。

車両基地跡地の利用に関して、ソフトとハードの両面から市民や利用団体、行政が協働で取り組み、新たな松山の文化活動の創造・発信のモデルケースとなるような複合施設をめざします。

そのためにも、引き続き、より多くの市民が参加し共有できるような市民参画の機会を積極的に設け、参加促進を図ります。

②利用者である市民の声や専門家の意見を反映した施設の管理・運営の実現

情報文化交流拠点としてどのような施設を作るかに加え、施設をどう活用・運営していくのかが重要です。

今後、基本計画・施設設計の検討過程では、管理・運営への市民参画も視野に入れ、施設の利用者である市民の声や専門家の意見を反映するとともに、協働のパートナーとなり得る市民活動団体・NPOなどと対話を重ねながら、管理・運営の仕組みづくりを検討していきます。

③事業手法（官民パートナーシップ型の事業の実現）

事業化や管理・運営は、より積極的な民間活力の活用が望まれます。新しい松山の市民文化活動拠点として、民間の資金、アイデアや経営力などを活かしながら、官民パートナーシップ手法の選択肢の中から、適切な事業手法の検討が必要です。

3) 松山らしさ

①歴史・文化の継承

県都松山の陸の玄関口にふさわしい新たな顔づくり、21世紀の都心づくりを先導するプロジェクトとして、車両基地跡地の利用は、新しい松山の市民文化活動を創造・発信するとともに、松山の長い歴史・文化を継承し、これらを将来に受け渡していく場としての役割があります。

②松山らしさの発見とアピール

「松山駅周辺まちづくり審議会」では、みかんの木、俳句や文学、和風、お城を連想させる景観（石垣、瓦屋根、松など）、路面電車の走る風景など、「松山らしさ」の表現についての議論がありました。

また、市民が新しい価値観を見だし、これまでになかった「松山らしさ」の発見につながる視点が重要であるとの報告をいただきました。

松山の市民文化活動を象徴する施設とするためにも、今後、市民参画を通じ、「松山らしさ」について共通認識を持ち、複合施設の機能・デザインに活かしていきます。



①松山駅周辺まちづくり審議会 委員名簿

(順不同・敬称略)

| | | |
|-----|---------|------------------------|
| 会長 | 柏谷 増男 | 愛媛大学 名誉教授 |
| 副会長 | 大谷 英人 | 高知工科大学 システム工学群 教授 |
| | 清田 誠良 | 広島工業大学 工学部 教授 |
| | 重山 陽一郎 | 高知工科大学 システム工学群 教授 |
| | 畔地 利枝 | 聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 准教授 |
| | 宇都宮 千穂 | 愛媛大学 法文学部 准教授 |
| | 高須賀 賢一 | 松山商工会議所 地域振興部 地域振興課 課長 |
| | 一色 精剛 | 新玉小学校 P T A 会長 |
| | (林 尚文) | |
| | 一色 英徳 | 松山駅周辺土地区画整理審議会 会長 |
| | 佐々木 ひろみ | 松山駅周辺土地区画整理審議会 委員 |
| | 玉乃井 厚子 | N P O ソフィア倶楽部 代表 |
| | 石橋 優介 | 公募 |
| | 井上 雅子 | 公募 |
| | 永井 由起 | 公募 |

注1：()内は前任者

注2：任期 平成24年11月7日～平成26年11月6日

②審議会による基本構想の審議経過

- 平成24年10月4日 松山駅周辺まちづくり審議会 設置
- 平成24年11月7日 第1回審議会 開催
- 平成25年1月15日 第2回審議会 開催
- 平成25年2月7日 第3回審議会 開催・中間報告
- 平成25年8月20日 第4回審議会 開催
- 平成25年10月16日 第5回審議会 開催
- 平成26年2月16日 第6回審議会 開催
- 平成26年3月25日 第7回審議会 開催
- 平成26年4月11日 審議会による基本構想案の報告

松山市都市整備部 松山駅周辺整備課

〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7番地2

電話 089-948-6467 F A X 089-934-1807

Eメール matsuyamaeki@city.matsuyama.ehime.jp